

みやぎのだより

No. 114

みやぎの酪農農業協同組合広報誌

令和2年1月14日



青年部仙南支部研修会

CONTENTS

新年のご挨拶.....	1	酪農技術シリーズ②⑩	7
酪農フレンズパーティーの開催	3	粗飼料情勢.....	9
各支部で研修会の開催.....	3	令和元年度 生乳生産実績.....	10
青年部仙南支部研修会の開催	4	理事会通信.....	10
婦人部仙南支部研修会の開催	4	売りたい、買いたい.....	11
牛乳・乳製品料理コンクール東北大会	5	2019年度中小酪農経営等生産基盤維持・	
宮城県牛乳普及協会料理教室	5	強化対策事業の事業参加者へお願い.....	11
牛群検定～優良事例紹介～	6	編集後記	11

新年のご挨拶



みやぎの酪農農業協同組合
代表理事組合長

伊藤 一成

あけましておめでとうございます。

組合員の皆さまとともに新春を迎えることができましたこと、心からお喜び申し上げます。

令和2年の年頭にあたり、組合員の皆さまから旧年中に賜りましたご支援、ご協力に対し、厚くお礼を申し上げます。

昨年は豪雨や台風による深刻な自然災害が相次いで発生した一年でありました。9月初めには台風15号による大規模な停電や断水により、生乳廃棄、乳牛の斃死等の被害が発生し、その被害が色濃く残るなか、10月には台風19号によりさらなる被害に見舞われ被災地域も拡大し、宮城県内においても道路寸断や崩落、停電や断水などライフラインが断たれ、生乳廃棄、さらには冠水などにより自給粗飼料など甚大な打撃を被り、未だに丸森町におかれては、復旧・復興の道半ばの状況にあります。

改めて被害に遭われた組合員の皆さまに心からお見舞いを申し上げます。当組合では共に助け合うという協同理念のもと、生乳廃棄と自給粗飼料被害の両面から支援を行い、今後も引き続き被災地の早期の復旧・復興に向けて、系統組織一丸となり全力で支援してまいります。

我が国の酪農は、後継者不足や高齢化等により、酪農家戸数の減少が続いており、生産基盤の強化等により経営の一層の安定を図ることが喫緊の課題となっているなど厳しい情勢の中、昨年4月には平成27年以来4年ぶりとなる飲用原料乳価4円の引上げが実現し、一筋の光明がさした感がありますが、特に都府県酪農と家族経営の生産基盤の立て直しは緊急の課題であります。さらに一昨年12月のTPP11、昨年2月の日欧EPA協定の発効に続き、今月に日米貿易協定が発効されるなど、大型の貿易協定が相次いで動き出し、関税の削減や撤廃など乳製品の自由化が進み、酪農政策の長期ビジョンも不明確で、先行き不透明な状況であり、今後、新たな国際環境下で、我が国酪農の国際競争力の更なる強化が求められることとなります。



また、4月には今後10年間を展望する新たな酪農・肉用牛近代化方針(酪肉近)が策定され、我が国の畜産の基礎を形づくり、方向性が示され、その実現に向け、現状と課題を共有しながら、国はもとより地方公共団体、酪農家、生産者団体その他関係機関が強い意志と覚悟を持って課題に取り組み、酪農の更なる振興を目指して参りたいと考えております。

本年は生乳流通の自由化に向けた改正畜安法が施行されてから3年目を迎えますが、酪農経営の安定のためには、指定団体による共販体制の維持・強化に取り組むことが最も重要であると考えております。指定団体は乳価交渉力強化や輸送コストの低減、また日々変動する生乳生産量や用途別の需要量に対し、生乳を廃棄せずに売り切る機動的な需給調整の実施などの機能を果たしており、このことが酪農家の経営安定や乳製品価格の安定に大きく貢献しており、加えて自然災害などの際には全国の指定団体が連携し、生乳廃棄を最小限に抑制しております。

当組合といたしましては、指定団体を通さない生乳取引の拡大は、生乳需給安定に混乱を招きかねないことから、指定団体への受託販売・生乳取引への推進に取り組むとともに、現在進めております岩手県南地域の一部を包含した宮城県生乳流通体制の合理化の実現に向けて地域酪農専門団体の役割をしっかりと果たしてまいりたいと考えております。

また、事業推進における取組みの基本姿勢として、「組合員に信頼される組合運営・消費者に信頼される良質乳生産」、「経済事業の運営改善」及び「組合員・地域社会貢に貢献する協同活動」を目指してまいります。

そしてこれまで以上に、意欲を持って営農できるように組合員の皆さまと真摯に向き合いながら、酪農の将来のために貢献できるよう役職員一丸となって地域酪農振興に邁進してまいります。

本年も引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝とますますのご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

酪農フレンズパーティー開催

指導課

12月8日(日)仙台市勝山館スカーレットプラザにおいて、酪農に携わる独身男性と、酪農に興味・関心のある一般女性が集う「第15回酪農フレンズパーティー」を開催しました。

今回の酪農フレンズパーティーは、男性12名と女性16名が、限られた時間の中で緊張しながらもお互いに自己アピールをしました。フリータイムでは、男性が女性に食事を取り分けてあげるなど、微笑ましい光景があり楽しい時間を過ごせたと思います。今後も後継者が酪農を続けていくために素晴らしいパートナーと出逢い、励みのある明るい将来を育んでいけるよう願っています。



各支部で研修会の開催

指導課

12月入り多くの支部で研修会が開催されました。一部ではございますがご紹介いたします。

12月10日(火)に大和町『八幡はなぶさ』において、黒川支部研修会が開催され、伊藤代表理事組合長に酪農情勢をお話いただきました。

また12月18日(水)には加美支部研修会を加美町『まるゆ会館 はやさか』で開催し、全国酪農業協同組合連合会仙台支所小林佑紀氏を講師に迎え飼料情勢の講演をしていただきました。各支部とも多くの方が参加され、親睦を兼ねた懇親会では部員同士の交流を深めることができました。



(黒川支部)



(加美支部)

青年部仙南支部研修会の開催

指導課

12月5日(木)伊具支部の「井上英樹牧場」にて青年部仙南支部の研修会を開催しました。全国酪農業協同組合連合会技術顧問の村上明弘氏を講師に迎え「飼養管理の検討会」としてバーンミーティングを行いました。実際に井上牧場の施設や牛群を観察し、分娩前後の管理・暑熱寒冷対策・経産牛の乳量の向上などディスカッションを行いながらアドバイスをいただきました。その後、大河原町のおおがわら天然温泉「いい湯」に場所を移し、井上牧場の牛群検定結果を利用した「飼養管理の改善について」を講演されました。井上牧場は牛群検定結果で優良な成績を残しておりますが、更に上を目指すための重要点・改善点などを熱心に説明していただきました。

また、参加者は積極的に質問され今後の経営に役に立つ有意義な研修会となりました。



婦人部仙南支部研修会の開催

指導課

11月11日(月)仙台市青葉区「ホテルプレミアムグリーンプラス会議室」にて婦人部仙南支部研修会が開催されました。全国酪農業協同組合連合会仙台支所購買畜産課 佐藤晃一氏を講師に迎え、「初乳の栄養管理・良質初乳は健康な母牛から」についての講演をされました。健康維持と生存に最も重要な「初乳」、良質初乳は乾乳牛の栄養状態と環境が子牛に直結することなど、哺育牛の管理から元気な子牛に育てるための技術について詳しく説明していただきました。

部員同士での意見交換では、すでに実践している初乳の保存管理方法など、具体的に役立つ情報を聞くことができました。

交流会ではランチbuffetを楽しみながら日頃の仕事の疲れを癒すべく、談笑しながらゆっくりとした時間を過ごせ、さらに親睦を深めることができました。



牛乳・乳製品利用料理コンクール東北大会

宮城県牛乳普及協会

今年で3回目となる「牛乳・乳製品利用料理コンクール東北大会」が11月9日(土)に仙台市の宮城調理製菓専門学校において開催されました。東北5県(青森除く)、応募総数1852通の最優秀賞、優秀賞に選ばれた各県の代表2名の計10名で行われ、各県の代表ともあり、レベルの高い素晴らしい作品でした。

宮城県代表から岩動美智子さんの「懐石風じゃがいも団子のナッツあんかけ」と最上抄織さんの「あん肝みtainなチーズ軍艦」が出場しました。

栄えある最優秀賞に選ばれたのは、杉本千尋さん(秋田県)の「男鹿梨のコンポート」。優秀賞は、船木咲野花さん(岩手県)の「捨てちゃうりんごとお米のタルト」と本県から参加の最上抄織さんの「あん肝みtainなチーズ軍艦」。審査委員長特別賞は、中川翔月さん(福島県)の「～福島発～腹くっちーモーモーおこわ」でした。

出場された方のレシピについては、今大会の特設サイト「とうほくミルクレストラン」に掲載されておりますので是非ご覧下さい。

URL <https://www.tohoku-milk.jp/>



最優秀賞:男鹿梨のコンポート



優秀賞:あん肝みtainなチーズ軍艦

仙台市ガス局共催料理教室を開催しました！

宮城県牛乳普及協会

11月12日(火)仙台市ガス局ショールームにて「ミルク料理教室」を開催し、講師には、雪印メグミルク(株)東北統括支店の桜井先生と菊地先生を迎えました。

メニューは、牛乳を使用したマイルドな「白い麻婆豆腐」、この時期にとっても身体が温まる「カッテージチーズとエビのワンタンスープ」、見た目もオシャレで前菜にもなる「ヨーグルトゼリーのグラスサラダ」、デザートには「みるく抹茶白玉」を作りました。どれもとても美味しく、塩分控えめで体にも良いので皆様も是非ご家庭でお試し下さい。

今回のレシピや参加者の様子は、当協会ホームページに掲載しておりますのでご覧下さい。

URL <http://miyagi-milch.jp/>



柴田牧場（しばたぼくじょう）

●牧場の概要

- ＊所在地：仙台市太白区
- ＊飼養頭数：経産牛30頭、育成6頭、和牛13頭
- ＊年間出荷乳量：約275t
- ＊補正乳量：約9,000kg／頭



●牧場のめざすもの

牧場は県内有数の温泉街の近くに位置し、牧場周辺でサイクリングを楽しむ観光客も増えているため、畜舎を含めた敷地内の環境整備や良質な堆肥生産に力を入れています。また、「酪農教育ファーム」の認証牧場でもあり、酪農を通じた教育活動にも携わっています。

最近では、育成牛を中心にゲノム解析を実施することで、牛ごとの能力の把握に努め、効率の良い牛群の改良を目指しています。また、乳量に重きを置かず、繁殖成績を向上させ、あわせて受精卵移植を活用した黒毛和種子牛の生産を行うことで、収益の向上に取り組んでいます。

●牛群検定の活用方法

①繁殖管理

検定でもっとも活用しているのが繁殖管理についての項目です。規模の拡大が難しく、和牛受精卵移植にも取り組んでいるため、空胎期間をいかに短くするかが収益に直結します。牛群検定では、自分の牛群の繁殖成績を、乳量や乳成分と照らし合わせて見るすることができます。繁殖成績が思わしくないときは乳質をチェックし、分娩前後の飼養管理に問題がなかったか確認しています。

②体細胞数

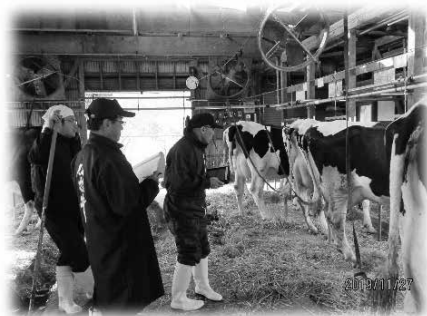
飼養頭数の少ない牧場では、淘汰をできる限り減らすことが経営上大事になってきます。牛群検定は、バルクの乳質ではわからない個体別の乳質データが得られるので、個体管理に欠かせません。特に体細胞数は牛の具合や乳房炎に関係するので、数値が高い牛を把握し、早期に治療を行うことで重症化を防止し、淘汰を防ぐことができます。

体細胞数は、飼養環境にも左右されるため、それを把握することは衛生的な搾乳の実施や牛舎の衛生状態を間接的に把握することにもつながります。牛群検定の活用により、いち早く体細胞数の高い牛を把握することができ、出荷する生乳の乳質を保つことが可能です。

●牧場から一言

牛群検定に加入すればいいのではなく、自分の経営への必要性を考えることが大事です。牛群検定では多くの情報を得ることができますが、その他にもゲノム解析を活用した改良や搾乳ロボットといったさまざまな新技術が出ています。いろいろな情報・技術に興味を持ち、いかに早くキャッチしていくかが大事だと思います。

〔仙台地方振興事務所農業振興部 小林〕



牛群審査の様子

牛群検定には6ヶ月間無料で体験できるお試し検定事業があります。
牛群検定を始めてみようかな、と思われた方は下記までご相談下さい。

- | | | |
|--------------|---------------------|------------------|
| ・宮城県ホルスタイン協会 | 〔(一社)宮城県畜産協会内〕 | TEL：022-298-9750 |
| ・県南乳用牛群改良組合 | 〔(一社)宮城県畜産協会仙南事業所内〕 | TEL：0224-52-2523 |
| ・県北乳用牛群改良組合 | 〔(一社)宮城県畜産協会中央事業所内〕 | TEL：0229-34-3304 |

体細胞数問題(乳房炎対策)について

今回は、体細胞数問題についてお話をさせていただきたいと思います。

● 体細胞数の経済的影響

体細胞の増加による経済的な影響と言うと、出荷乳に対するペナルティが思い浮かぶかと思いますが、その他にも、生産乳量の損失（体細胞が2倍になると1日あたり0.7kg乳量が低下）や繁殖成績（初回授精の遅れ、受胎率の低下、分娩間隔の延長）に影響を及ぼすと言われています。

● 乳房炎はなぜ起こる？

乳房炎は乳腺の炎症です。炎症は外傷や搾乳時に乳頭口を通して乳房に侵入した微生物によって乳を分泌する乳腺組織で起こります。この微生物は伝染性と環境性の2つに大別されます（図1）。体細胞の一部は乳腺が死滅した乳汁分泌細胞由来ですが、大部分は炎症に反応して乳腺に侵入してくる白血球です。

すべての乳房炎は、牛の外にいる微生物が乳房の中に侵入して感染します。微生物による「汚染」は通常、搾乳と搾乳の間に発生し、「感染」は通常、搾乳中に発生します（図2）。

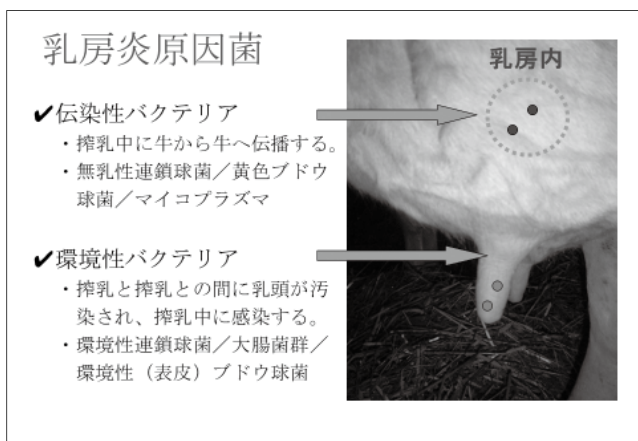


図1. 主な乳房炎原因菌

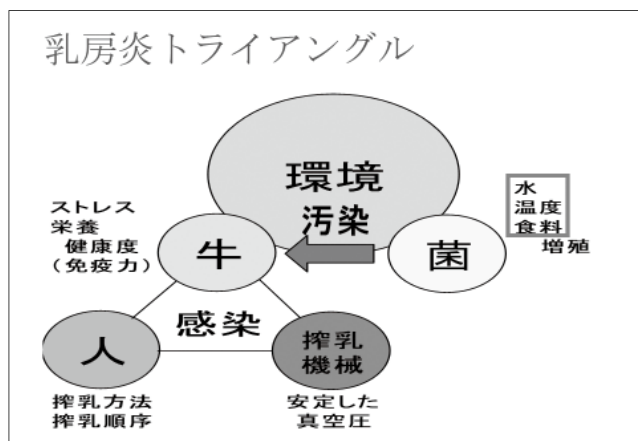


図2. 微生物の「汚染」と「感染」経路

● いかに治すか？よりも“いかに予防するか！”が大切です

1) 乳房を清潔に保つ ～乳房・乳頭の汚染を少なくする～

良い乳質を保ち、効率よく搾乳するために重要なことは、乳房と乳頭に汚れが付いていなく清潔であることです。牛は1日の半分以上を横になって過ごし、この間、乳頭・乳房は直接敷料に触れています。牛を「清潔で、乾いた、居心地の良い状態」に保つためには、清潔な敷料が必要であり、この時、いかに最近との接触を防げるかが乳房炎防除には大切です。

2) 正しい搾乳手順を採用する ～搾乳時の感染を少なくする～

乳房炎防除において、搾乳衛生（搾乳手順）がミルカー要因よりはるかに重要だと言われています。基本的な原則は、乳を下ろし始めた牛の清潔で乾いた乳頭を搾乳することです。

おすすめの搾乳手順を記載しますのでご参考にしていただけたら幸いです。

< 搾乳手順 >

- ① 前搾り（プレディッピングが先でも構わない）
- ② プレディッピング（乳頭全体を完全に浸す）
- ③ ディッピング液を30秒付けたままにする
- ④ 殺菌剤に浸した濡れタオルと拭き取りタオルで完全に拭き取る（1頭1タオル以上が基本）
- ⑤ 前搾りをしてから約60～90秒後にユニットを正しく装着する
- ⑥ ユニットを正しくはずす（過搾乳はしない）
- ⑦ ポストディッピング（殺菌効果の認められたものを使用し、乳頭全部を完全に浸す）

搾乳前準備方法と細菌減少率

搾乳前準備方法	細菌減少率
乾いたタオルのみ	－4%
濡れたタオルのみ	－40%
殺菌剤に浸した濡れたタオルのみ	－40%
濡れたタオルと拭き取り	－77%
殺菌剤に浸した濡れたタオルと拭き取り	－85%
プレディップと拭き取り	－85%

(Hoard's Dairyman, Vol.199, No.11, June.2004)

- 最高の作業でも、乳頭の細菌の85%しか除去できない。
- 従って、ストールの清潔さと搾乳機械の維持管理が重要となる。

● これだけはしていただきたい乳房炎対策

① ストリップカップを使用した前搾り

ストリップカップを使用することで、乳房炎の早期発見につながります。生乳を牛床にばらまくことは、細菌にエサを与え、増殖できる格好の場所を提供していることになります。

② 前搾りは5回行う

乳頭の先に溜まった汚染の高い乳を排出することができます。同時に、乳頭に刺激を与えることになりますので、牛の泌乳生理にあった搾乳（短時間で多くの乳を排出）が可能になります。

③ 搾乳手袋をつける

手には指紋やしわなどの凹凸があり、細菌がたくさんついています。しっかりとした搾乳用手袋を使うことで、乳頭への伝播・汚染を防ぎます。

④ ディッピングはしっかりと根本まで

乳頭の根本までしっかりとディッピング液を浸すことで、乳頭全体をカバーし、細菌の増殖を防ぐことができます。

最後までお付き合いいただきありがとうございました。

乳房炎の原因は一つのものではなく、複数の要因が絡み合っていることが多いため、農場によって乳房炎対策は様々だと思います。

ただ、菌との接触を減らすことは乳房炎対策の大前提になります。
今回お話をさせていただきました内容がお役に立てましたら幸いです。

配合飼料、哺育用代用乳

令和元年度第4四半期の配合飼料価格について、主原料であるトウモロコシは収穫の遅れによる生産量の減少予想により、前期比より値上がり傾向となっています。大豆は米国産の作付遅延により堅調な相場となりましたが、12月以降は南米産の進捗が順調なことにより軟調な推移となっていますが、総じて前期比値上げとなっています。

ふすまはメーカーの小麦挽砕量が減少傾向にありましたが、年明け以降増加する見込みで、需給は適正に推移するとみられます。

代用乳については、豪州の干ばつによる生産量の減少に対し、中国他東南アジアの旺盛な需要から相場は上昇しています。

為替相場は好調な米国経済からドルが買われ、今後の米中貿易交渉が順調に進めば、更なる円安ドル高の進行が予想されています。

以上の結果、第4四半期は配合飼料850円/トン値上げ 哺育代用乳5,000円/トンの値上げとなりました。

北米コンテナ船情勢

2020年1月より重油燃料に含まれる硫黄の環境規制が開始されます。多くの船会社は対策費用のための上乗せ料金導入を延期していましたが、規制開始に合わせ、本格的に課金が始まるようです。上乗せ額は各船会社で異なるようですが、製品価格への転嫁は確実視されています。

ビートパルプ

各地で収穫期に悪天候が続き、収穫の断念や単収の低下が生じたため、収穫量は当初予想より減少し、今後の供給への影響が懸念されています。

アルファルファ

ワシントン州の主産地コロンビアベースンは収穫期の天候不順で、高成分・上級品は極めて限定的となりました。

また、米国内の乳価が昨年同期比約20%上昇しているため国内需要は底堅く、輸出向けが産地全体で不足がちな中、中東の需要は強く、産地相場は上昇が続いています。

天候に恵まれたオレゴン州では上級品が多く、総じて高成分のものが収穫されました。他産地の作柄が不調だったため、高品質の需要が国内外から集中しており、産地相場は引き続き堅調に推移しています。

カリフォルニア州では終盤の収穫で、産地気温の低下により一部で高成分のものが発生しているようです。

米中貿易戦争の緩和による追加関税の撤回以降、中国からの需要が回帰し、産地相場は高止まりが続いています。

チモシー

米国内では収穫が終了し、上級品がほぼ成約済みなことに対し、一部のサプライヤーが旧穀を含む中～低級品の在庫を抱えているようです。また、産地相場の低下により、生産意欲の減退が見込まれ、来期の作付面積は減少が予想されています。

カナダでは全体的に収穫序盤は天候に恵まれ、上級品が中心となりましたが、その後は天候の悪化により多くが中～低級品となり、結果としてほとんどのグレードが満遍なく生じました。産地相場は安定しており、大きな変動は見られません。

ストロー類

2019年は主産地で天候に恵まれず、降雨被害が多くなりました。台風被害の影響で日本及び韓国からの需要が非常に強く、産地価格は上昇しています。

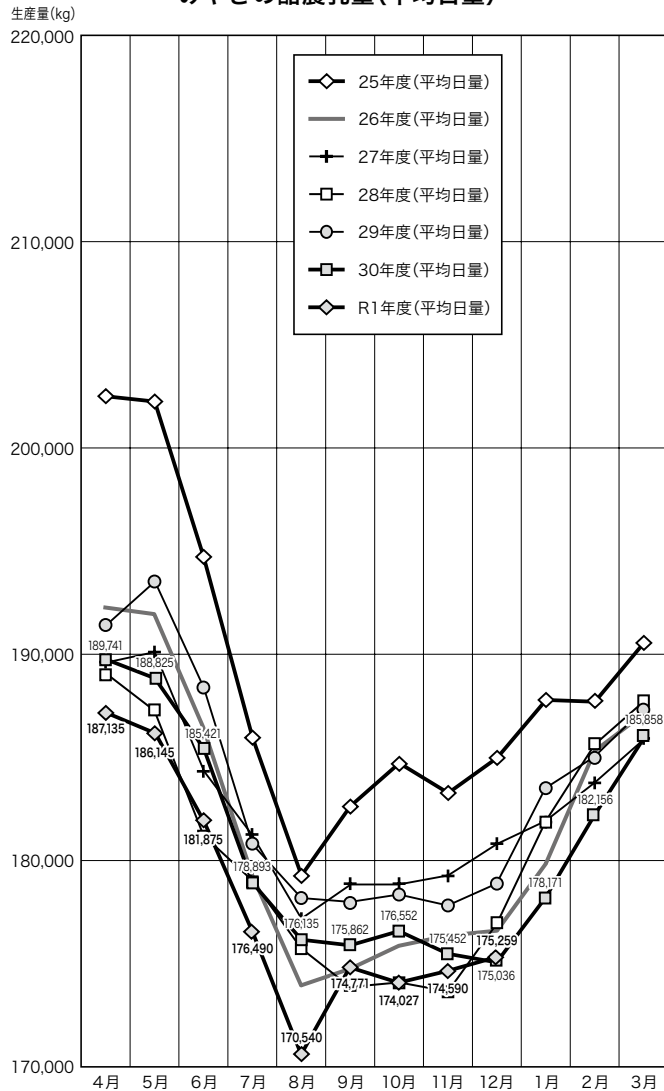
豪州産オーツヘイ

東部、南部、西部ともに降水量が少ないことから収量は例年より減少気味ですが、品質は全体的に上級品がほとんどで、中～低級品はかなり限定されています。産地相場は弱含みですが、豪州国内需要は高く、小幅な値下げになる見込みです。

令和元年度 生乳生産実績

販売課

みやぎの酪農乳量(平均日量)



令和元年度生乳生産実績(4月～12月 標準進捗率75.14%)

(単位:kg、%)

支 部 名	戸数	バルク乳量	前年同期乳量	前年同期比	生乳出荷目標数量	進捗率
白石・七ヶ宿支部	27	6,848,319.6	6,838,595.9	100.14	9,050,709.0	75.67
蔵王支部	25	6,202,906.4	6,324,431.5	98.08	8,411,847.0	73.74
柴田支部	15	3,128,343.5	3,146,336.3	99.43	4,146,530.0	75.44
伊具支部	18	3,787,029.6	3,921,639.2	96.57	5,225,801.0	72.47
仙台支部	12	2,769,614.0	2,812,581.8	98.47	3,695,691.0	74.94
名取支部	6	708,366.0	710,414.0	99.71	966,360.0	73.30
黒川支部	7	937,697.0	845,055.0	110.96	1,105,962.0	84.79
大崎支部	18	2,486,743.0	2,607,817.0	95.36	3,473,912.0	71.58
遠田支部	16	4,814,441.0	4,652,764.0	103.47	6,150,849.0	78.27
加美支部	15	1,803,469.0	2,016,267.0	89.45	2,649,223.0	68.08
鳴子支部	10	1,567,755.0	1,628,385.0	96.28	2,194,130.0	71.45
栗原支部	32	4,510,070.0	4,640,038.0	97.20	6,159,141.0	73.23
登米支部	27	5,453,871.0	5,279,416.0	103.30	7,079,035.0	77.04
志津川支部	9	852,455.0	991,613.0	85.97	1,267,900.0	67.23
本吉支部	6	494,978.0	604,023.0	81.95	769,924.0	64.29
石巻支部	6	695,881.0	739,382.0	94.12	990,103.0	70.28
豊里支部	12	1,845,497.0	1,794,214.0	102.86	2,423,883.0	76.14
みやぎの酪農	261	48,907,436.1	49,552,972.7	98.70	65,761,000.0	74.37

※出荷戸数については、直近の数字です。

理事会通信

総務課

【第8回理事会】

開催日 令和元年11月27日

付議事項 第1号議案 一般資金の融資について
第2号議案 定期賞与(12月期)の支給について

【第9回理事会】

開催日 令和元年12月16日

付議事項 第1号議案 令和元年度上半期決算監査にかかる監事監査報告について

【機 械】

品 名	ラッピングマシーン
メーカー	Kverneland (クバンランド)
型 式	UN7558
値 段	応相談
平成7年導入機械	



【自給粗飼料】

台風19号の影響により、自給粗飼料が流されるなどの被害が多く発生したため、組合員間で牧草と稲わらの斡旋を行っております。価格や保管場所等の詳細については、各所指導係までお問合せ下さい。なお、現在(1/6時点)稲わら51ロール・牧草4ロールを斡旋させていただきました。



(写真: 斡旋した稲わらを運搬する様子)

2019

中小酪農経営等生産基盤維持・強化対策事業の事業参加者へ(お願い)

指 導 課

上記の事業参加者は、2月末日まで該当する機械装置等を導入し設置を完了していただくこととなっております。

また、導入前と導入後の写真が必要となることから書類の整備も併せてお願い致します。ご不明な点がございましたら、各所指導係までご連絡下さい。



[編 集 後 記]

新年明けましておめでとうございます。

今年の7月24日から東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。1964年(昭和39年)以来56年ぶりに日本での開催となり、新年からオリンピックムードが高まっており今年はさらに暑い夏となりそうです。本年も「みやぎのだより」を何卒宜しくお願い致します。

発 行

遠田郡美里町北浦字道祖神前16

みやぎの酪農農業協同組合

TEL.(0229)34-2311(代表)

.....